

## かのほら・ふれあいネットワーク（群馬県）

### 活動地域

かのほら・ふれあいネットワークの会長の茂原でございます。私たちの「かのほら・ふれあいネットワーク」は、「安全で安心して暮らせる住みよい地域づくり」に地道に取り組んでいる団体です。防犯フォーラムという、こんな大きな大会でお話しするような立派な活動をしているとは思っておりませんが、私たちの防犯活動、地域づくりが大会の趣旨に沿っているとお話で、発表の機会をいただきました。大変光栄なことに感謝しております。これからお話しする内容が皆さんの参考になるかどうか分かりませんが、よろしく願いいたします。

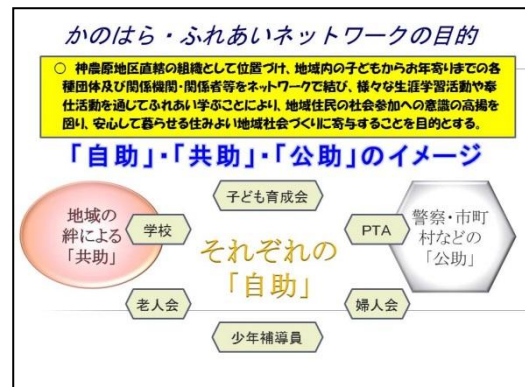


私たちの地域の富岡市は、群馬県の南西部に位置し、現在、ユネスコ世界遺産の登録を目指している富岡製糸場のある町です。東京から約100キロ、関越高速道路、上信越道を利用して、約1時間の所でございます。私たちが暮らす神農原地区は、富岡市の中心街から西に約66キロの位置にあります。昭和30年代のころは100戸余りの農村地帯でしたが、交通の発展や経済の成長に伴い、現在は世帯数680戸、人口1,750人となっております。

### 団体の概要

次に、かのほら・ふれあいネットワークの目的を説明させていただきます。人口や世帯数が増加すると、どこの町にも見られるように、地域の絆にも変化が生じてきます。前からの住民と新しい住民の調和や絆をどのように形成するか、長年にわたり模索してきました。平成12年に富岡市から、「まなびの里、生涯学習都市、とみおか」が宣言され、市民に生涯学習の機運が高まりました。このような状況の中、「生涯学習や奉仕活動を通じて、住民のふれあいができれば、調和や絆も深まり、安全で安心して暮らせる住みよい地域づくりもできるのでは」との意見が多くの方々から寄せられました。この意見を受けて、区長を中心に「神友会」が推進母体となって、地区内の子供からお年寄りまでが関係する各種団体、グループ及び関係機関の代表者をネットワークで結ぶ「かのほら・ふれあいネットワーク」が平成13年7月に設立され、活動を開始しました。

現在は、次の図に示しているように、自分で自分の安全を守る自助、地域や近隣住民が



互いに協力して自分たちの地域を守る共助の仕組みを地域住民に意識付けしているところでございます。これに、警察、市町村などの公の助けである公助が加わる社会で、安全・安心のまちが形成されるものと思っております。

この写真は、活動の拠点となっている「かのはら公会堂」です。青少年の健全育成や防犯活動、文化祭や夏祭り等、地域住民全員が参加できる「ふれあいの場」の拠点でございます。



## 活動の概要

それでは、防犯活動について、説明させていただきます。まず、最初が、青少年の健全育成の取り組みの状況です。子供会の行事に関連し、富岡警察署より警察官を派遣していただき、少年非行防止や犯罪抑止、交通安全に関することなど、講話や実地指導を行っているところです。

次に、小学生の見守り活動の状況です。神農原地区の児童は、通学距離片道約2キロの一ノ宮小学校に通学しています。この通学路は国道254号線に沿っていることや、国道を2回横断する児童もいて、また通学距離が長いと不審者に遭遇する心配があるなど、保護者にとって子供の通学は大変大きな心配事でありました。そうした中、心配事が少しでも軽減でき、子供たちを守ることができればとの思いで、仕事を退職された方、主婦の方等、昼間、家にいる方たちで組織し、低学年の下校時刻に合わせた見守り活動を平成17年4月から行っております。具体的には、1班4、5人体制で9班を編成し、1週間交代で、下校時刻に一ノ宮小学校までお迎えに行き、児童と見守り隊と一緒に下校、帰宅する活動を行っております。日ごろ、小学生と会話する機会が少なくなった高齢者が、下校時に、小学生といろいろな会話をしながら帰宅する楽しさは、高齢者にとっても元気をいただいているのが実情のところでは。



下校時のほか、夜のパトロール活動も行っております。平成15年ごろに神農原地区で空き巣などの泥棒被害が連続して発生したことをきっかけに、同年7月から、自警団員を中心に、自主参加住民を募り、毎月、5と10の日に午後8時から、神農原地区全域を徒歩で



巡回するパトロールを行ってきました。昨年の10月からは体制を強化し、神農原地区を4ブロックに分け、各ブロック3班編成で、合計12班が夜間パトロールプログラムに沿って活動しています。現在の活動メンバーは134人です。

次に、住民の「ふれあいの場」づくりの状況について、説明させていただきます。まず、春の文化祭の状況です。「ふれあい、学ぶ心」の発表の場として、隔年に開催しております。市内の公民館教室や生涯学習団体等で学んでいる地区内の方々の作品を展示し、出展者と来場者の「ふれあいの情報交換」の輪が広がっています。右下の写真は夏祭りです。盆踊りを通じて、子供からお年寄りまで楽しい「ふれあいの場」が形成されております。



秋祭りに向けて、子供たちがおはやしの稽古をしているところです。村の鎮守様の富士神社例大祭は神農原地区の一番大きな行事です。子供たちは、みこしや山車で地区内を巡行します。大人たちは、神社境内にあるふれあい館で、踊りやカラオケ等、演芸会を行います。最後は、大抽選会で祭りを締めています。



次は、しめ縄づくりをしているところです。地域のお年寄りの指導の下、正月の門松や飾り物等、稲わら細工を子供や若い人たちに継承していく活動です。参加者は自宅用に作って持ち帰っております。



次が、どんど焼きの状況です。門松やしめ縄など、正月の飾り物を集めてたく、古くから行われている伝統行事です。子供からお年寄りまで、地区内住民が大勢集まり、大きな「ふれあいの場」が形成されています。子供たちがどん

ど焼きで焼いた繭玉だんごを食べている様子が映っていますが、この繭玉だんごは、前日に、地域のベテランのお母さんの指導の下、子供会の若いお母さんと小学生と一緒に作ったものでございます。

## 活動の効果と今後の課題



先ほどの、「ふれあいの場」における情報交換から生まれた地域の絆をいくつか紹介させていただきます。まず一つが、遊歩道を整備した地域の絆です。平成19年から6年の歳月を経て、道路幅2メートル、総延長1,300メートルをコンクリート舗装しました。原材料の生コンクリートを富岡市から無償支給をしていただき、地域の住民延べ260人がボランティアで工事を完成させたものです。この遊歩道は、「ふれあいの

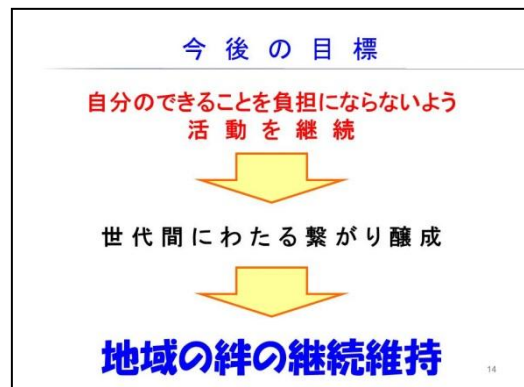
小路、いきいき快道」と命名し、地域住民が朝な夕なに散策をしています。また、一般車両が通行できないため、近くの西中学校の生徒の安全な通学路としても活用されております。



二つ目が、近隣住民が互いに協力して助け合う共助の力が発揮された地域の絆です。平成19年に台風の豪雨によって地区内で土砂崩れが発生した際には、行政措置に先んじて、地区の住民80名余りが、土砂に埋もれた家屋の復旧活動を行いました。画面に赤く表示されていた所が崩れた所で、この画面が現在の状況でございます。この他にも日常的に、子供たちが利用する公園の管理や、通学路の点検整備、農家の高齢

化により耕作できなくなった農地をお花畑に環境整備するなど、「ふれあいの場」で発案された事業を地道に実行しております。

最後に今後の目標について、説明させていただきます。私たちの活動は、「自分のできることを負担にならないように行うこと」「世代間にわたるつながりを形成し、地域の絆を継続して持ち続けること」が目標です。最終的な目標は、住民が自分の負担にならない程度にボランティアという考えでなく、ライフワークで自然に活動できるようになっていただければいいなと願



っているところでございます。そのためには、子供からお年寄りまでの全住民が参加できる「ふれあいの場」づくりに、役員相互が創意工夫をしていくことや、「地域の安全をつくるという理念や思い」を地域住民にしっかり広報・啓発していくことが、重要なテーマと思っております。

そのために、毎年、輪番制で交代する各組長さんの方々を、ふれあいネットワークの賛助役員になっていただき、地域全体の広報活動をしております。また、4名の代表組長さんには理事になっていただき、組織全体、ならびに、世代間のつながりの強化を図っております。

終わりに、「絆には地酒のかおりもちょっと付き」とコメントしてありますが、これまでの経験から、地域の絆を継続して維持発展させていくには、「ふれあいの場」における情報交換、いわゆる、飲み会でございます。この飲み会で、住民相互が本音で語り合うことが、最も重要であると感じていることから、あえて、強調させていただきました。以上で、説明を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

## 質疑応答

---

●質問 活動費はどう工面していますか？

○回答 私どもの軍資金は区からの助成金と、富岡市の公園を管理しててる公園の管理委託料、それに古新聞とか段ボールの有価物回収事業で得た収入で事業をまかっています。